虚僞を傳へて人を欺く總同盟の盲を開く

――組合同盟並に加藤勘十君の名譽のために――

アハテフタメイタ告訴沙汰

「今回の品川製作所の紛議は、總同盟が我が支部を乘つ取らんとして失敗した其の失敗を隱蔽せんためのものであることは餘りにも明白な事實である（裏面參照）彼等は自己の非を蔽ふ手段として再三再四に亘つて卑劣醜陋なる逆宣傳ビラを撒布し、我が組合同盟並に加藤、望月君等を中傷讒誣して已まないのである。我等が彼等の狂氣ジミた中傷讒誣を大人氣なしと相手にせないでをれば「臭ひもの身知らず」と云ふか益々圖に乘つて勝手放題な中傷ビラを撒布してゐる。殊に一枚のビラが出て總同盟の最弱點即ち松岡君の急所？を突やく、周章狼狽して滑稽にも名譽毀損で訴へてゐる。而してそれを特大號見出しのビラで仰々しく、名譽毀損で訴へさへすれば、どんな事實でも無くなつて了ふものでもあるかのやうにわめき立てゝゐる。所が氣の毒なことには、名譽毀損とは、刑法二三〇條に規定してゐる、公然ノ事實ヲ摘示シ、（中略）其ノ事實ノ有無ヲ問ハス（下略）に明かなる如く、告訴したからとて法律は少しも事實が無かつたと云ふことを證明してはくれない。ビラにあるやうな醜事實、反階級的行爲が松岡君にあつたかどうかは知らないが、名譽毀損の告訴さへすれば、一切の事實が無くなりでもするが如き書き方は、人をして法を誤解せしめるもので、松岡君が名譽毀損の告訴をしたからとて、恐らく檢事局では問題にせないだらうと思はれるが、假りに檢事局でこれを取り上げたとしたならばこちらでは事實の眞相を公判廷で曝露して徹底的に糺彈するであらう。さうすれば彼等に取つては却て自ら墓穴を掘ることになり氣の毒千萬なことである。

醜惡なる總同盟の運動方針

彼等は僅數十名の少數を以て全從業員の名を僭稱し、ムキになつて今回の問題と松岡君とが關係のない事を陳辯してゐる。なるほど、彼等のビラにある通り松岡君は十月八日から十二月十日まで關西に出張してゐた。それは大阪の資本家團體に國際勞働會議の報告をするためと、尼ケ崎の久保田鐵工所で戰鬪的勞働者――大阪の脱退派支持者――數十名を資本家と協力して除名、解雇するために：：：：：だからと云つて、松岡君が關係がないとは云へない。小林君の會計費消問題に松岡君が關係ないことは當然である。即ち會計問題は十一日に示談始末書を提出して一段落ついてゐるのである。

問題は十二日早朝、彼等が總同盟のダラ幹一味を工場に引き入れたときから始まる。從つて、十二日以後が總同盟の方針に基づくものとすれば、總同盟をわがもの顏に獨裁的支配權（わき目にはさう見える）を振つてゐる松岡君が當の責任者として引き合に出されるのは當然ではないか。それとも、彼等は『よいことだけは松岡君へ、少しでも都の惡いことは他人へ』とでも思つて居れば別問題だが、まさか、そんな器用な使ひ分けも出來なからう。それともビラに書いてある『我等は松岡氏に對して甚だお氣の毒に感ずる』通りに巧みな使ひ分けをやるつもりであらうか、如何！

彼等は世間の人々は誰でもが總同盟の出す惡態、毒舌讒誣はこれを其の儘無條件で承認し、他から出す攻撃は縱んば事實であつてもこれを承認してはならんと云ふ掟でもあると思つてゐるのか。何んと虫のよいことよ！『汝、人に辛ければ人、また汝に辛し』の言葉を少し頑味せよ。

松岡擁護に名をかる卑劣なる戰術を見よ

彼等は松岡君を擁護すると見せかけて、實は敵本主義の對手方である加藤君を中傷することにヤッキとなつてゐる。彼等に一つのことを敎へて上げやう。『餘り手前味噌が過ぎると鼻持ちがならなくなる』てふことを。彼等は加藤君の身元調べをやつて得意氣であるが、加藤君が過去に如何なる經歷をもつ人であるかは、同君の著『階級戰の先頭を行く』の一頁でも讀めば判ることだ。それよりも現在日本の無產運動界に於いて、組合同盟と總同盟の占める立場並びに加藤君と松岡君とに對する常識的判斷を見よ。いくら樂屋中から大太鼓を叩いた處で松岡君にはそれこそ芳しからぬ風評が圍繞してゐるではないか。

彼等は加藤君が代議士病患者であるとのゝしり、而して今度の問題も選擧の豫行運動として夢中になつてゐると囃し立てゝゐるが、これをしも『問ふに落ちず語るに落つ』と云ふのである。加藤君は事件發生の十二日以來、支部事務所に我等と寢食を倶にし、他の一切を顧みることなく、勞働運動の階級性擁護のために、勞働者を總同盟ダラ幹の魔の手から防衞すべく全力を擧げて努力しつゝある。誰やらさん見たいに、ブルジョアジーに超然と構へて、一寸來ては[illegible]を列べて[illegible]る人とは違ふようだ。

加藤君が選擧の幻影にとりつかれてゐると云ふ舌の根のかはかないうちに、見よ、加藤君がコツ〳〵として我等と寢食を倶にしてゐる間に、松岡君は今まで殆ど演説會をやつたことのない地方即ち品川、蒲田、荏原、中野等々各地（勿論名目は何んとでもつくし、又我等は松岡君が演壇に立つことをやめてよいことだと思つてゐる）に、演説會を催し、而して末端をして我が組合同盟並びに加藤、望月君等の惡口雜言を吠へ立てしめてゐる。彼等こそ正しく選擧の豫備行爲をやつてゐるのだ。曲筆舞文もこゝまでくれば堂に入つたものである。

良心の分量如何

彼等は繰返して『松岡君が直接何等の關係ないこと、而して爭議の合理的解決のために熱心に努力してゐること』を語つてゐる。ウフフン……將に一幅の漫畫モノである。彼等の謂ふ爭議の合理的解決とは、關係外の資本家の門を叩いて哀訴歎願することか、まさかさうでもなからう。

然しながら、諸君！ 次の事實を笑はずに見て下さい。

第何回目かの國際勞働會議が開かれた。其の資本家代表は瓦斯會社の社長某氏。其の勞働代表が色々の意味で名高い誰やらさん、而して其の誰やらさんが執行委員をしてゐる某無產黨（この無產黨は無產と云ふ言葉は階級的だから使つてはいけない社會正義と云ふ言葉を使へと云ふ無產黨だそうな）は市會議員を先頭に立てゝ瓦斯料金値下、增資反對運動をやつてゐる。

瓦斯會社は品川製作所の最大のお得意先き、誰やらさんは、瓦斯會社の社長と國際勞働會議で肩を叩き合つた仲だから世間體は値下運動、增資反對をやつてゐても、其處はまた話しのしやうもあるとでも思つたのか、瓦斯會社の某氏をツツイて品川製作所を困らせやうの一條、この芝居甘くいつたらおなぐさみ！ だが、問屋はさうは卸さなかつたらしい。この合理的解決法はウマウマと失敗！ 南無三！ 誰やらさんの胸の中や如何！

いくら資本家と仲よしだからとて、その資本家が主宰する瓦斯會社の利益に相反する攻め道具をもつて攻め立てて居りながら、それはそれ、これはこれの戰術では、如何におメデタイ資本家と雖も、一寸誰やらさんの尻馬に乘らないのも無理はない。このスサマジイ戰術も先樣に逃げを打たれてギヤフン！誰やらさんの良心の分量や如何に！きかまほしきものぞ。

遂に馬脚を曝す

一度は彼等の巧妙なる誘惑に迷はされ、彼等の影響下に走つた勞働者諸君も、彼等の非違と狡智を覺とつて日に〳〵我等の陣營に復歸しつゝある。而して今や工場で平穩に作業してある仲間の數は二百二十數名を算へ、殆ど常態に立ち戻つてゐる。

これに反し、彼等の陣營は彼等の非違と錯覺から來た當然の歸結であるとは云へ、秋風蕭條としてもの淋しく哀愁轉同情に堪へないものがある。さあれ、彼等の焦燥は愈々出でゝ愈々烈しく、ものゝ正確なる判斷力を失つて色盲的謬見に陷り、果ては暴力沙汰をさへ傳へられるに至る。

三十日夜の如きも、今回の事件に直接何等の關係のない一職長を卑劣なる暗打ちをもつて傷害を負はせ、所持の洋傘を奪ひ去つたと云ふことである、この傷害事件は我等とは關係なく被害者から辯護士を代理人として告訴を提起したさうである。更に三十一日は勘定の支拂日であつたが、不思議なことには本人は工場へ出て働いて居たり或は親が病氣で田舍へ歸つてゐた人の委任狀をもつて勘定を受取つて行つた爭議團ハ幹部があつた。

これなどは明かに私文書僞造、私印盜用或は僞造行使の罪に該當するもので、會計の費込み位のものではないのである。勘定を詐取された被害者は正式に告訴の手續きを取つた筈である。

全勞働者諸君！ 降る火の子は拂はねばならぬとは云ひながら、見苦しい泥合戰を欲しない。總同盟の醜惡下劣なる逆宣傳のビラを見るとき、一種の義憤を感ずるが、我等は再び斯の如きビラを書かざらんことを願ひつゝ心で泣いて本稿を草するものである。どうか、我等の心事を諒として頂きたい切に諸君に愬へる。（裏面を御覧下さい）

昭和四年十一月　日

日本勞働組合同盟本部　神田區東福田町三

關東金屬產業勞働組合品川支部　府下大崎町下大崎三九六五反田會館內